

科目名	理科 科目： 化学 I	使用教材	教科書 高等学校 化学 I (数研出版) 副教材 改訂版 化学 I 学習ノート (数研出版) 基礎問題のプリント センター対策のプリント
単位数	2年次： 3単位選択 スーパー進学コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子(発問への対応、実験演習への取り組み、その他) 提出物(ノートチェック・演習プリント・宿題)

学習到達目標

- ・ 日常に存在する物質の成分を考えながら身近な化学反応をあげ、自然界や人工合成物の素材を知る。
- ・ 理科基礎(化学編)で学んだことを基礎として、その内容を深めていく。
- ・ 化学物質の特性を知ること、日常生活における自分の姿を知る。
- ・ 将来の難関大学入試やセンター試験への対策へ結びつけていく。

I. 授業について

授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業して行きます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。授業で書いたノートを家庭学習にて別のノートに清書すれば、効果は上がります。

「化学」の基礎中の基礎である、よく使う元素記号と元素名とよく使う物質の化学式は「化学」という科目ではなく「一般常識」として定着させておきましょう。授業中はもちろんのこと、校内で出会ったときに突然「アンモニアの化学式は？」などと聞くことがあります。常に良い意味での緊張感を持ちましょう。

II. 自主学習について

化学の時間は時間内に内容を覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、新聞やニュースなどを通して関連性のあるものに興味を持ちましょう。何事も興味と疑問を持つことが向上につながります。また、化学薬品や実験器具を多用することがあるので、常に安全に気を配りましょう。

◎予習

上に書いてあるとおり、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまで行く！」と予想される部分を読んでおくと良いでしょう。ただし、予習課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

授業時間内に覚えてしまう、ということは大原則です。しかし、授業時間内に理解できなかった場合は必ず担当の先生に聞きに行きましょう。先生たちは忙しくされていても、必ず教えてくれる時間を作ってくれるはず。「今はちょっとだめだけど、放課後においで！」と必ず約束してくれるでしょう。また演習問題や関連性のある事項を数多くこなして行きましょう。

単元終了ごとにミニテストを行いますので理解度チェックのために活用しましょう。また理解度が十分な人は理解できていない人に教えてあげましょう。他人に教えることによって、理解度は深まります。

Ⅲ.評価について

◎ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

◎ 評価の観点 (①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。)

- ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
 ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べているかを観ます。(関心・意欲・態度)
 ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月		第1編	<ul style="list-style-type: none"> 物質を構成している元素の種類や性質を知ることにより身近にあるものに照らし合わせ理解する。 化学物質の結合のしかたの違いを知ることにより日常起こりうる現象について理解する。 「化学」を学習する上での中心的役割をもつ「モル」について理解する。 化学反応式およびそれが発展した熱化学方程式の作り方をとおして、身近な化学反応を理解する。 酸性と塩基性の本来の意味を理解する。 酸化と還元について日常の現象で理解する。 電気の起こる理由の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ●元素記号と化学物質の関係を知ることによって身近な物質に興味を持つ心を育てる。 ※ここまでの内容は1年次の理科基礎で十分やっているので、復習と演習を中心に行う。 ●化学反応式や熱化学方程式の表す意味を身近な現象に照らし合わせて考える心を育てる。 ※類似問題を自主的に演習することで、さらに興味を持つ。 ●「酸とアルカリ」「酸化(サビ・燃焼)」は常に身近に起こっている現象であるから、常に考える習慣と心を育てる。 ※演習や実験を通して、興味を深めるとともに安全に配慮(化学に限らず)する心を育てる。
5月		物質の構成と構成粒子 (基礎化学)		
6月		①物質の性質		
7月		②化学結合		
8月		③周期表		
9月		④化学式と原子量		
10月		⑤物質と質量		
11月		⑥濃度の表示法		
12月		第2編		
1月		物質の変化 (理論化学)		
2月		①化学反応式		
3月		②熱化学方程式		
		③酸と塩基		
		④酸化と還元		
		⑤電気化学		
4月		第3編	<ul style="list-style-type: none"> 第1編の基礎化学および第2編の理論化学と同時進行という状態でその内容を深め理解する。 単体、化合物、イオン、沈殿の色や性質を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●元素の分類と周期律・典型元素と遷移元素などの分類をすることにより、元素の世界にも「規則性」と「仲間(族)」のあることを感じ取る。 ※元素の分類を系統的に覚えるために、単語カードのようなものを利用する。
6月		物質の性質 (I)		
9月		(無機化学)		
10月		①元素の周期表		
11月		②典型元素		
12月				
1月		③遷移元素		
2月				

科目名	理科 科目： 化学 I	使用教材	教科書 高等学校 化学 I (数研出版) 副教材 改訂版 化学 I 学習ノート (数研出版) 基礎問題のプリント センター対策のプリント
単位数	2年次： 1 単位選択 ベーシック 3 コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子 (発問への対応、実験演習への取り組み、その他) 提出物 (ノートチェック・演習プリント・宿題)

学習到達目標

- ・ 日常に存在する物質の成分を考えながら身近な化学反応をあげ、自然界や人工合成物の素材を知る。
- ・ 理科基礎 (化学編) で学んだことを基礎として、その内容を深めていく。
- ・ 「化学」という科目に限らず、広い視野に立って身の回りの現象や日常生活に欠かせない製品等について、常に科学的な思考力と洞察力を持って接する姿勢を育てる。

I. 授業について

授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業して行きます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。

「化学」の基礎中の基礎である、「よく使う元素記号と元素名」「よく使う物質の化学式」は「化学」という科目ではなく「一般常識」として定着させておきましょう。授業中はもちろんのこと、校内で出会ったときに突然「アンモニアの化学式は？」などと聞くことがあります。常に良い意味での緊張感を持ちましょう。

II. 自主学習について

化学の時間は時間内に覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、新聞やニュースなどを通して関連性のあるものに興味を持っておきましょう。興味を持てば知りたくなります。

また、化学薬品や実験器具を多用することがあるので、常に安全に気を配りましょう。

◎予習

上に書いてあるとおり、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまで行く！」と予想される部分を読んでおくの良いでしょう。ただし、予習課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

授業時間内に覚えてしまう、ということは大原則です。しかし、授業時間内に理解できなかった場合は必ず担当の先生に聞きに行きましょう。先生たちは忙しくされていても、必ず教えてくれる時間を作ってくれるはずです。「今はちょっとだめだけど、放課後においで！」と必ず約束してくれるでしょう。また演習問題を数多くこなし、関連性のある事項をまとめておきましょう。

単元終了ごとにミニテストを行いますので理解度チェックのために活用しましょう。また理解度が十分な人は理解できていない人に教えてあげましょう。他人に教えることによって、理解度は深まります。

Ⅲ.評価について

◎ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

◎ 評価の観点 (①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。)

- ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
 ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べているかを観ます。(関心・意欲・態度)
 ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月		第1編 物質の構成と構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> 物質を構成している元素の種類や性質を知ることにより、身近にあるものに照らし合わせて理解する。 化学物質の結合のしかたの違いを知ることにより日常起こりうる現象について理解する。 「化学」を学習する上での中心的役割をもつ「モル」について理解する。 化学反応式およびそれが発展した熱化学方程式の作り方をとおして、身近な化学反応を理解する。 酸性と塩基性(アルカリ性)の本来の意味を理解する。 	<p>●元素記号と化学物質の関係を 知ることによって身近な物質に興味を持つ心を育てる。 ※ここまでの内容は1年次の理科基礎で十分やっているのので、復習と演習を中心に行う。</p> <p>●物質の存在を感じるだけでなく、定量的・数値的な処理をすることで、常に疑問を持ち科学的探究心を持つ心を育てる。 ※類似問題を自主的に演習する。</p> <p>●化学反応式や熱化学方程式の表す意味を身近な現象に照らし合わせて考える心を育てる。 ※類似問題を自主的に演習することで、さらに興味を持つ。</p> <p>●「酸とアルカリ」「酸化(サビ・燃焼)」は常に身近に起こっている現象であるから、常に考える習慣と心を育てる。 ※演習や実験を通して、興味を深めるとともに安全に配慮(化学に限らず)する心を育てる。</p>
5月		①物質の分類		
6月		②原子の大きさと構造		
7月		③電子配置		
8月		④化学結合の種類		
9月		⑤元素の周期律		
10月		⑥化学式の意味		
11月		⑦原子量・分子量・式量		
12月		⑧物質質量		
1月		⑨濃度の表示法		
2月		第2編 物質の変化		
3月		①化学反応式		
		②化学反応の前後関係		
		③反応熱の種類		
		④熱化学方程式		
		⑤中和反応		
		⑥水素イオン濃度とpH		
		⑦酸化と還元		
		⑧金属のイオン化傾向		
		※ 3年次の予告		

科目名	理科 科目： 化学 I	使用教材	教科書 高等学校 化学 I (数研出版) 副教材 改訂版 化学 I 学習ノート (数研出版) 基礎問題のプリント センター対策のプリント
単位数	2年次： 3単位選択 スーパー進学コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子(発問への対応、実験演習への取り組み、その他) 提出物(ノートチェック・演習プリント・宿題)

学習到達目標

- ・ 日常に存在する物質の成分を考えながら身近な化学反応をあげ、自然界や人工合成物の素材を知る。
- ・ 理科基礎(化学編)で学んだことを基礎として、その内容を深めていく。
- ・ 化学物質の特性を知ること、日常生活における自分の姿を知る。
- ・ 将来の難関大学入試やセンター試験への対策へ結びつけていく。

I. 授業について

授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業して行きます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。授業で書いたノートを家庭学習にて別のノートに清書すれば、効果は上がります。

「化学」の基礎中の基礎である、よく使う元素記号と元素名とよく使う物質の化学式は「化学」という科目ではなく「一般常識」として定着させておきましょう。授業中はもちろんのこと、校内で出会ったときに突然「アンモニアの化学式は？」などと聞くことがあります。常に良い意味での緊張感を持ちましょう。

II. 自主学習について

化学の時間は時間内に内容を覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、新聞やニュースなどを通して関連性のあるものに興味を持ちましょう。何事も興味と疑問を持つことが向上につながります。また、化学薬品や実験器具を多用することがあるので、常に安全に気を配りましょう。

◎予習

上に書いてあるとおり、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまで行く！」と予想される部分を読んでおくと良いでしょう。ただし、予習課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

授業時間内に覚えてしまう、ということは大原則です。しかし、授業時間内に理解できなかった場合は必ず担当の先生に聞きに行きましょう。先生たちは忙しくされていても、必ず教えてくれる時間を作ってくれるはず。「今はちょっとだめだけど、放課後においで！」と必ず約束してくれるでしょう。また演習問題や関連性のある事項を数多くこなして行きましょう。

単元終了ごとにミニテストを行いますので理解度チェックのために活用しましょう。また理解度が十分な人は理解できていない人に教えてあげましょう。他人に教えることによって、理解度は深まります。

Ⅲ.評価について

◎ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

◎ 評価の観点 (①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。)

- ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
 ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べているかを観ます。(関心・意欲・態度)
 ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月		第1編	<ul style="list-style-type: none"> 物質を構成している元素の種類や性質を知ることにより身近にあるものに照らし合わせ理解する。 化学物質の結合のしかたの違いを知ることにより日常起こりうる現象について理解する。 「化学」を学習する上での中心的役割をもつ「モル」について理解する。 化学反応式およびそれが発展した熱化学方程式の作り方をとおして、身近な化学反応を理解する。 酸性と塩基性の本来の意味を理解する。 酸化と還元について日常の現象で理解する。 電気の起こる理由の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ●元素記号と化学物質の関係を知ることによって身近な物質に興味を持つ心を育てる。 ※ここまでの内容は1年次の理科基礎で十分やっているので、復習と演習を中心に行う。 ●化学反応式や熱化学方程式の表す意味を身近な現象に照らし合わせて考える心を育てる。 ※類似問題を自主的に演習することで、さらに興味を持つ。 ●「酸とアルカリ」「酸化(サビ・燃焼)」は常に身近に起こっている現象であるから、常に考える習慣と心を育てる。 ※演習や実験を通して、興味を深めるとともに安全に配慮(化学に限らず)する心を育てる。
5月		物質の構成と構成粒子 (基礎化学)		
6月		①物質の性質		
7月		②化学結合		
8月		③周期表		
9月		④化学式と原子量		
10月		⑤物質と質量		
11月		⑥濃度の表示法		
12月		第2編		
1月		物質の変化 (理論化学)		
2月		①化学反応式		
3月		②熱化学方程式		
		③酸と塩基		
		④酸化と還元		
		⑤電気化学		
4月		第3編	<ul style="list-style-type: none"> 第1編の基礎化学および第2編の理論化学と同時進行という状態でその内容を深め理解する。 単体、化合物、イオン、沈殿の色や性質を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●元素の分類と周期律・典型元素と遷移元素などの分類をすることにより、元素の世界にも「規則性」と「仲間(族)」のあることを感じ取る。 ※元素の分類を系統的に覚えるために、単語カードのようなものを利用する。
6月		物質の性質 (I)		
9月		(無機化学)		
10月		①元素の周期表		
11月		②典型元素		
12月				
1月		③遷移元素		
2月				

科目名	理科 科目： 生物 I	使用教材	教科書 高等学校 改訂 生物 I (第一学習社) 副教材 自作プリント
単位数	2年次：1単位 ベーシックコース	評価方法	定期考査、小テスト、 授業の様子（発問への対応、実験演習への取り組みその他） 提出物（ノートチェック・演習プリント・宿題）

学習到達目標

- ・理科基礎（生物編）で学習した基礎的な内容を更に深めていく。
- ・生物に関する事物・現象についての観察・実験などを行い、日常生活と生物のつながりに対する関心や探究心を高める。
- ・生物という教科における基本的な概念や原理・法則を理解することにより、科学的な自然観を育てる。

I. 授業について

授業内容は基本的に教科書の内容に沿う形で進めていきますが、必要に応じて編集・精選をして授業を行っていきます。また、教科書の進行と同時にプリントを配布し、重要項目や教科書には載っていない重要項目の説明も行っていきますので、配布されたプリントは自分のノートに貼り付けましょう。

教科書で難しい説明がされている箇所等は、身近な事柄に置き換えて説明をしていきますので、「自分が見返して分かりやすいノート」に作り上げましょう。

黒板には様々な事柄を書いていきますが、重要な項目には必ずチェックを入れていきますのでノートは積極的にとりましょう。

実験は、薬品や刃物を使う事が必ずあります。ちょっとした気の緩みや不注意は大きな事故の元になります。実験時には、気を落ち着けて周囲に注意を払い取り組んでください。

II. 自主学習について

基本的には、授業時間内に新たな事柄（原理・概念・植物や動物の部位の名称等）を学習していきます。授業前に教科書を一度読んでおくと授業内容が非常に分かりやすくなります。特に、今までに聞いたことのない言葉等が出てきますので、専門用語等は教科書にチェックを入れておくと良いでしょう。

○予習に関して

上記の通り、深く予習する必要性はありませんが、新しい言葉（専門用語等）が出てきますので、教科書を一度読んでおき、新しい言葉（専門用語等）にはチェックを入れておきましょう。

○復習に関して

初めて聞く言葉等が多く出てくる教科です。授業時間だけでは知識になりにくいと思います。授業内容は必ず見返して専門用語等は覚えて生きましょう。また、授業時間内に理解できなかった内容は、担当の先生に質問に行くか、または、次の時間に質問しましょう。

III. 評価について

- 評価の対象
 - ① 定期考査 ② 授業（実験）の様子 ③ 提出物
- 評価の観点（①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。）
 - ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。（知識・理解）
 - ② 授業に取り組む姿勢を評価します。発問に対して自ら考え、自分の答えを述べているか等。（関心・意欲・態度）
 - ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。（発展・協調）

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月		第I編 生命の連続性 細胞	<ul style="list-style-type: none"> ・生物体を構成し、その生命を維持している基本単位はすべて細胞であることに注目し、その細胞体の構造・働きを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●細胞の発見と細胞説 ●細胞内にある核の働きと構造 ●原核細胞と真核細胞 ●細胞小器官（核・葉緑体・ミトコンドリア・ゴルジ体など）の構造と働き ◆葉緑体と光合成 ◆ミトコンドリアと呼吸 ※身のまわりに存在する動物植物は全て細胞から成ることを知る。
5月		細胞の単位		
6月		細胞への物質の透過		
9月		細胞の増殖	<ul style="list-style-type: none"> ・生物種族を残す方法である生殖方法について理解する。 ・受精卵から新しい個体ができる方法と、特定の形態と機能を持つことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●細胞の働きと酵素の関係 ●細胞における物質の出入り（動物細胞と浸透・植物細胞と浸透） ●細胞の選択的透過性 ●受動輸送と能動輸送 ●体細胞分裂の方法と、植物細胞と動物細胞の分裂の違い ●単細胞生物と多細胞生物 ●細胞の分化と組織の形成（植物の組織と動物の組織） ※様々な形態の生物の成長を理解し、生命の神秘性を感じ取る。
10月		生殖と発生 生殖 有性生殖の過程		
11月		生殖と発生 生殖 有性生殖の過程		
1月		生殖と発生 生殖 有性生殖の過程	<ul style="list-style-type: none"> ◆ミズクラゲの生殖 ●減数分裂の過程 ●生殖細胞の形成と染色体の組み合わせ ●動物の配偶子形成と受精 ●精子の構造 ●種子植物・被子植物・裸子植物の生殖 ◆シダ植物の生殖 ●卵の種類と卵割 ●ウニ・カエルの発生 ●胚葉の分化と器官の形成 ◆ヒトの発生 ※発生を通して命の尊さを感じ取る 	
2月		生殖と発生 生殖 有性生殖の過程		
3月		発生とその仕組み		

科目名	理科 科目：生物 I	使用教材	教科書 高等学校 改訂 生物 I 副教材 基礎問題のプリント センター対策のプリント
単位数	二年時： 3単位選択 スーパー進学コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子（発問への対応、実験演習への取り組み、その他） 提出物（ノートチェック・演習プリント・宿題）

学習到達目標

- 理科基礎（生物編）で学んだことを基礎として、その内容を深めていく。さらに進んだ生物学的な方法で生物や生命現象に関する問題を取り扱い、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、探求の過程を通じて、科学の方法を習得し、科学的な自然観を育てる。
- 将来の難関大学入試やセンター試験への対策へ結びつけていく。

★授業について

- 授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業していきます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。授業で書いたノートを家庭学習にて別のノートに清書すれば、効果は上がります。「理科基礎」の授業において、ある程度の基礎的な内容は学習していますが、その内容をさらに深めていきます。

★自主学習について

- 生物の時間は時間内に内容を覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく生物は覚えることが多いので1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、授業内でふれることのできなかったものも多くなると思うので、自分にあつた参考書や問題集で学習を深めましょう。新聞記事やニュースなどで関連性のあるものに興味を持ちましょう。何事も興味と疑問を持つことが向上につながります。身近な生物と触れ合うことも大切です。

◎予習

- 上に書いてある通り、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまでいく」と予想される部分を読んでおくとい良いでしょう。ただし、予想課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

- 授業時間内に覚えてしまう、ということが大原則です。しかし、授業時間内に理解できなかった場合は必ず担当の先生に聞きにいきましょう。また、演習問題や関連性のある事項を数多くこなしていきましょう。単元終了ごとにミニテストを行いますので理解度チェックのために活用しましょう。また理解度が十分な人は理解できていない人に教えてあげましょう。他人に教えることによって、理解度は深まります。

評価について

・ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

・ 評価の観点(①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。)

- ① 各単元や授業内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
 ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べているかを観ます。(関心・意欲・態度)
 ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4		第1章 細胞と個体 生命の単位—細胞 細胞小器官 細胞への物質の透過 細胞の増殖	細胞について知識を深め 生命の神秘を理解する。	●動物細胞と植物細胞の違い ●細胞内の構造と働き (問)「総合自分をみつめる」 ※ 「生き方・考え方」について関心を持つ
5				●浸透圧と選択的透過性 (問)総合「生命の誕生」 ※ 現代社会の歪みに目を向ける
6				●単細胞生物と多細胞生物 ●個体の成り立ち (問)1年生合宿研修 ※ 夢や目標を持つことの重要性を理解し、生活の中で具体的改善点を考え始める
7		第2章 生殖と発生 有性生殖と無性生殖 生殖細胞の形成 動物と植物の生殖 動物の発生	生殖による生命の連続性を理解する。 受精前の細胞分裂と受精後の細胞分裂を理解する。	●受精、分裂、出芽、栄養生殖 ●配偶子(卵と精子)の形成 (問)総合的な学習—課外—野球応援 ※感動を共有できる仲間の素晴らしさを感じ、自分の夢や目標に対する意欲を高め、その方法を再確認することができる ●受精卵の動向 ●卵割から各胚を経て幼生まで ●器官の形成と分化

9				<p>●予定胚域と形成体 (問)総合「生きる姿に学ぶ」体験学習 ※ 人とのつながり、関わりの中に自分がいることを感じる ※ 自分の「生き方・考え方」が重要であることをぼんやりと感じる</p>
10		<p>第3章 遺伝 遺伝の法則</p>	<p>遺伝の基本用語と法則を理解する。</p>	<p>●遺伝子用語を覚える ●優性の法則、分離の法則 独立の法則</p>
11		<p>いろいろな遺伝 遺伝子と染色体 遺伝子の本体</p>	<p>遺伝子の本体であるDNAの構造を理解する。</p>	<p>●二遺伝子座雑種 ●連鎖と組み換え ●DNAの構造と働き</p>
12				<p>(問)総合「生きる姿に学ぶ」体験学習 ※生きていることに感謝し、常に自分を反省しようとする姿がみられる (問)総合的な学習－課外－陸上応援 ※感動を共有できる仲間の素晴らしさを感じ、自分の夢や目標に対する意欲を高め、その方法を再確認することができる</p>
1		<p>第4章 刺激の受容と反応 刺激の受容から反応 受容器と効果器</p>	<p>動物について、神経系と行動の関係について理解する。</p>	<p>●刺激と興奮 ●感覚器官（目、耳、鼻、舌、皮膚）のはたらきと神経</p>
2		<p>神経系 動物の行動</p>		<p>●本能、学習、刷り込み、反射 ※ 本校生徒であることに自身と誇りを持っている ※ 謙虚で誠実な生き方をめざそうとし、現状の課題を見つめることができる ※ 善悪の判断ができ、仲間に本音で忠告できる</p>